

# 八王子根付中野御嶽講について

講元 野嶋 和之

えて伝えて  
参ります。

思います。

平成12年

農家上組と  
会計を分離、

同13年「八

野御嶽講中」

と改称し、地域の方々へ入講を  
お誘いして、年々増員のうえ今  
に至り、現在は毎年四月に全戸  
での登拝を執り行なっています。

講元には平成13年より父恒久が  
就きましたが、平成18年講員の  
皆様のご推举により私がその任  
に当たっています。

これに片柳正喜氏、  
世話人の出縄信久、原島貞良、  
原島勝三、五十嵐保各氏と講員  
の皆様方のご協力を戴き、御嶽  
神社の大切さを広めながら、先  
祖より伝わる御嶽講中が末長く  
続けられることを願つてやみま  
せん。

おわりにあたり御嶽神社の  
益々のご隆盛ご発展と、宮司並  
びに御師各位のご健勝をご祈念  
申し上げます。

私たちの住む町は、八王子市内を流れる浅川の北岸、国道16号稻荷坂の西に位置しています。かつての旧中野村、八王子市との合併以前は、南多摩郡小宮町西中野と謂われた所で、古くより根付中野・原中野・上中野の三つの集落があります。「根付中野」は、上組・中組・東組にわかれ、古くより信心深い地域で、秋葉山・榛名山・大山・今熊山の講中があつたと伝わります。近年に上中野では跡絶えましたが、三地域とも御嶽講があり、根付上組と原中野の講中は今でも存続しています。

根付中野上組は真言宗喜福寺を東端に中野の鎮守、子安神社を真中に東西に伸びる集落で、今では市街化がすすみ田園の面影すら残りませんが、少し前までは加住丘陵を背に、南に広がる田園、西は今熊山に至る畠地が広がる農村でした。

根付上組御嶽講の開講は詳らかではありませんが、上組全戸が講員で以前に訊いた古老の話

などから少なくとも江戸時代の末期までは遡れるようです。代々お世話を戴いた御師は片柳氏で、当代は片柳正喜氏です。

講中の詳細は、昭和四十年代初頭の台風禍で子安神社境内の、農家上組俱楽部が被災し、壁に掛けたあった厚く綴られた何冊もの講中の控え帳が建物ごと亡失してしまい、今では口伝以外は全く判らなくなりました。ま

日待ち」を、毎年行なってきましたが、戦後の食糧事情の悪化で、全戸での「お日待ち」が続いた。最後の講元は曾祖父龍太郎でした。

農家上組での御嶽講中は講元を置かず、年番による組長が一切を執り行ないました。代参の年もあれば全員での登拝もありました。「お日待ち」は再建なつた農家上組の俱楽部が会場に当たれ毎春夜半まで行なうのが常でした。長い歳月の間、御嶽山や「お日待ち」で繰り広げられた代々の講員の方々の逸話は尽きることがなく、御嶽神社を介しての近隣の楽しい交わりは今も続き、これからも世代を超

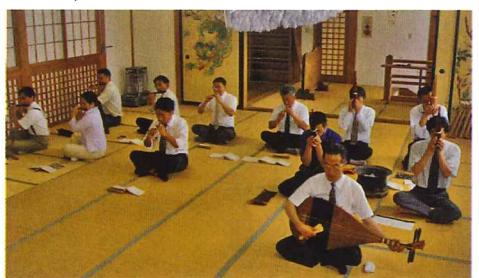
## 疱瘡社（疫神社）お宮めぐり

ご祭神 山末大主神 別名 大山昨神 神域・地域守護 災厄封じ・病気平癒・諸災除

石段の登口、大鳥居をくぐる前に奉られております。山末大主神は山末が山据つまり山麓を表していることから、神域である御嶽山内に疫病や穢れが入らないように山麓守護の意味合いを重く見て祀られています。江戸時代に製本された御岳菖笠にも「疱瘡瘡瘡診勝男木の棚に、赤き幣、薯を備えて、祭りなば、軽くしどりて、成長を松尾山にあとたれし、大山昨の神とかや」と病気よけとしての信仰が詠われています。疫病除けは医療発展前は稻を守る事と同じく重要視されました。神徳を込められた御神塙・御砂・御石守り等をお受けいただけます。

## 雅楽講習会

今年第三十回を迎えた。過去十数年来途絶えていたこの講習会を、昭和五十四年に復活させた。第二回より講師を迎える第二十三回・平成十四年より宮内庁式部職楽部の安齋省吾先生、東儀雅季先生、松井北斗先生をお迎えして、十七・八人の講習生が毎年三管それぞれの指導を受けている。今回は、盤渉調の「白柱」「竹林樂」を課題曲とし、さらに楽箏、樂琵琶の指導も始まった。



## 奉納・大藏流狂言

八月十八日・鳥居前広場に設置された野外舞台にて、夜の御嶽山の澄んだ涼しさの中で大藏流狂言をご奉納いただきました。大藏千太郎氏を始めとした一門の方々により「蚊相撲」「寝音曲」などが熱演され、多くの方々が夏の夜のひとときを笑いの中ですごしました。また翌日より三日間、大藏流に伝わる装束などの「洗い」や「虫干し」などが神社で行われました。普段見ることが出来ない伝統の技法や装束を近くで見ることが出来、ご参拝の皆様も喜ばれておりました。

